

小学校外国語活動の授業における英語絵本を活用した取組み

—授業の自然な流れを意識して—

教科研究センター 小中学校教科研究課 英語教育グループ

吉田 朋世 今井 信義 福島 安希子

英語教育グループは、昨年度、朝の時間に担任の先生が行う英語絵本の読み聞かせの実践を通して、児童が英語に慣れ親しむ手段として効果的な読み聞かせの方法を探り、また児童の学年、発達段階に応じた絵本を選定した。今年度は、研究協力校での実践を通して、授業との関連を考えた絵本の活用法を引き続き探った。以下、今年度の研究の成果と課題について考察する。

〈キーワード〉 小学校、外国語活動、外国語、授業、英語絵本、読み聞かせ

I はじめに

昨年度は、朝の時間に英語専科の担任の先生が行う読み聞かせの実践を通して、英語絵本1冊1冊について内容や読み方、適した学年等を検討した。その結果、あらすじや話の展開を類推させるための手法や児童参加型の雰囲気作りのための手法など、さまざまな読み聞かせの手法が明らかになり、実践を通して見えたものを「英語の絵本活用リスト」にまとめることができた。一方で、外国語活動の授業で絵本を使う実践や、英語専科ではない担任の先生が行う実践を知りたいという要望を受けた。そこで今年度は、英語専科ではない担任の先生に協力を依頼し、外国語活動の授業ではどのように絵本を活用できるかについて研究を進めることとした。この研究で得られたノウハウは、次年度以降の教科外国語の授業及び3、4年における外国語活動でも活用できるものである。

II 研究の概要

1 研究の目的

英語専科ではない先生でも負担を重くすることなく、外国語活動の授業をコミュニケーションの場にするための一つ的手段として、英語絵本の効果的な活用法を探る。

2 研究の方法

- (1) 研究員が研究協力員と共に、英語絵本を使った外国語活動の授業案を自然な流れになるよう工夫して作成する。
- (2) 研究協力員が授業を行い、研究員が授業の様子を観察、記録し、絵本の効果を検証する。

3 研究内容

- (1) 研究実践の概要

- ① 研究実践期間

平成29年5月～10月

- ② 研究協力校について

坂井市内の小学校1校、5年1組(29名)、6年1組(25名)の2クラスに協力を依頼した。研究協力員は、英語専科でない担任の先生お二人である。

③ 使用した絵本

両クラスの外国語活動の授業で使用した絵本は、次の8冊である。研究所にあるもの、県立図書館で借りたもの、昨年度文部科学省より出されたものから選び、1時間の授業につき1冊を使用した。そのうち、文部科学省が作成した絵本2冊(“In the Autumn Forest”と“Good Morning”)については、5年生で“In the Autumn Forest”を2時間、6年生で“Good Morning”を4時間連続してを使用した。6年生の“Where Is Little Toko?”は県立図書館で借りた絵本である。なお、今回の実践での読み聞かせは、いずれの絵本も、英語のリズムを味わうためにシンプルに地の文を読んでいくやり方ではなく、途中で話の内容や展開に関する質問をするなど児童とやり取りをしながら読むやり方で行った。

(5年生で使用した絵本)

	題名	著者名	出版社名	Hi, friends! 1 単元・時	
1	1 hunter	PAT HUTCHINS	Greenwillow Books	Lesson 3 How many?	第2時
2	Ketchup On Your Cornflakes?	Nick Sharratt	Scholastic	Lesson 4 I like apples.	第1時
3	COLOR SURPRISES	Chuck Murphy	Little Simon	Lesson 5	第1時
4	COLOR ZOO	Lois Ehlert	HarperCollins	What do you like?	第2時
5	In the Autumn Forest	文部科学省	文部科学省		第3、4時

(6年生で使用した絵本)

	題名	著者名	出版社名	Hi, friends! 2 単元・時	
1	From Head to Toe	Eric Carle	Harper Festival	Lesson 3 I can swim.	第2時
2	Where Is Little Toko?	Kyoko Matsuoka	RIC Publications	Lesson 4 Turn right.	第1時
3	Good Morning	文部科学省	文部科学省	Lesson 6 What time do you get up?	第1～4時

④ 研究の経緯

- 平成29年5月 担任の先生方への聞き取り
- 平成29年6月 普段の授業を英語教育グループが参観
- 平成29年6月～9月 授業案作成
- 平成29年6月 絵本を取り入れた授業実践(1回目)
- 平成29年7月 絵本を取り入れた授業実践(2回目)
- 平成29年9月～10月 絵本を取り入れた授業実践(3～6回目)
- 平成29年10月 担任の先生方への聞き取り

各学年全6回のそれぞれの実践前には、担任の先生と打ち合わせを複数回行い、実践後には児童の様子、成果や課題等を振り返った。児童には毎回振り返りを記入してもらった。

6、7月の1、2回目の実践は、いずれも4時間配当の1つの単元の中で、単発で1時間のみ行ったため、他の3時間の授業とは進め方に異なる部分が多く、担任の先生や児童を混乱させてしまった部分があった。そこで9月から3～6回目の実践では、単元を通して、4時間配当の全ての授業で絵本を使った実践を行った。

(2) 協力員への事前の聞き取り

5月に行った聞き取りによると、普段の外国語活動の授業について次のような状況が分かった。

- ・毎時間ALTとティームティーチングをしており、担任の先生一人での授業は一度もないこと
- ・ALTが中心となり、全て英語を使って授業を進めていること
- ・担任の先生は、デジタル教材の操作をしたり、ALTの英語が児童に伝わっていないところを日本語で補足したり、児童にALTとのデモンストレーションを見せたりする役割であること
- ・教材は“Hi, friends!”を順に進めていること
- ・協力員の2人は、教科化を前に、外国語の授業を自分が中心となって進めることに不安を感じているが、授業の進め方を変えなくてはと思っていること

英語絵本を授業で活用することについては、今までに英語絵本を授業で読み聞かせたり使ったりした経験がないので、発音が不安だが、今回の実践を機に練習して読めるようにしたいとのことだった。実際に、この聞き取りの後、6月の1回目の実践までに、中学校で英語を教えた経験のある英語専科の先生に教えてもらいながら、すらすら読めるように事前に何度も練習してくださった。

この聞き取りを受けて、今回の実践で絵本を導入する際には、授業の自然な流れを重視するために、担任の先生が主となりコミュニケーションをより意識した授業になるよう、授業展開の組み立てをそれまでとは変えることにした。授業案の原案は英語教育グループが考え、担任の先生と実践前に複数回打合せを行った。

(3) 実践

以下の①～⑥は、各実践の詳細である。①と②は5年生の1、2回目、③と④は6年生の1、2回目、⑤は5年生の3～6回目、⑥は6年生の3～6回目の実践である。①と③については、本実践前に参観した6月の通常の授業との比較も載せる。

① 5年生1回目（6月）

単元 Lesson 3 How many? *Hi, friends! 1*（4時間配当）

本実践での使用絵本 “1 hunter”（第2時）

		実践前（第1時）通常の授業	本実践（第2時）絵本活用の授業
担任の 先生の 関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの補助（通訳、機器の操作）。 ・英語の使用量が少ない。 ・決まった表現を使ってALTと活動のデモンストレーションをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を主で進める。 ・英語の使用量が増える。 ・英語で児童に質問をしたり、児童の発言に反応を返したりする。
ALTの 関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を主で進める。 ・指示は全て英語で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生の補助（ミニ会話の相手、板書）。 ・発言量は減る。
教材		<ul style="list-style-type: none"> ・Hi, friends! 1 ・絵カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本 “1 hunter”、Hi, friends! 1 ・絵カード ・校内の先生方へのインタビュー動画
授 業 展 開	導 入 展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・Hi, friends!の挿絵に関する質問 ・互いの持ち物を尋ね合うペアトーク ・様々な国の言葉でじゃんけんゲーム ・自分の持ち物を一つだけ言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・絵本の読み聞かせ（やり取りをしながら） ・先生のミニ会話（ALTのペットの数や種類） ・めあての確認「友達や先生のペットについて聞こう」 ・担任の先生と児童とのやり取り（担任の先

		生のペットの数や種類、クラスで一番多く飼われているペット)
まとめ	・あいさつ	・タブレットを使い、校内の他の先生方へインタビュー（ペットの数や種類、お子さんの数） ・振り返り、あいさつ
授業展開 ・内容の特徴	・絵カードを使った機械的な反復練習が見られ、単語を覚えて言わせることが目標となっている。 ・めあての提示、振り返りが無い。 ・一つ一つの活動のつながりが薄い。	・導入の絵本の読み聞かせから自然な流れで先生と児童のやり取りへつなげる。 ・読み聞かせややり取りの中で、今日することを類推させてからめあての提示をする。

導入で使った絵本“1 hunter”は、まわりに隠れている様々な動物に気付かずに獲物を探して森の中を進むハンターの話である。担任の先生が児童と一緒に隠れている動物を想像したり、動物の数を数えたりしながら絵本を読み、飼っているペットを題材にした先生のミニ会話につなげた。児童は「今日は数やペットの話をするのだな」と学習内容を類推し、めあてを確認した後、自分の飼っているペットについて先生の質問に答えたり、友達や他の先生方の答えを聞いたりすることができた。数や動物を題材とした授業を自然な流れで組み立てるために、導入でこの絵本を使うことは有効であった。

担任の先生は、実践前の聞き取りでは英語の発音が不安だと言っていたが、今回の絵本の読み聞かせに関しては特に大変ではなかったと授業後に答えている。日本語の絵本の読み聞かせ経験があり、事前に英語絵本を読む練習を重ねていれば、専科でない先生でも英語絵本の読み聞かせに対する負担はさほど大きくなると分かった。しかし、授業の進行に関しては、ALTに頼らず自分で英語を使ってやり取りをすることの負担は大きかったようで、児童の発言をうまく取り上げることができない場面が見られた。実践を継続する中で経験を積んでいこうという話になった。

児童の振り返りからは「時々日本語を使ってください」等、これまで英語をあまり話してこなかった担任の先生の英語使用が増えたことに対するとまどいが感じられる一方で、これからも今日みたいにほとんど英語で進めてほしいという前向きな意見も多かった。また、多くの児童が「絵本の読み聞かせで楽しく勉強できた」「これからも続けてほしい」と絵本に対する肯定的な思いを書いていた。

② 5年生2回目（7月）

単元 Lesson 4 I like apples. *Hi, friends! 1*（4時間配当）

本実践での使用絵本 “Ketchup On Your Cornflakes?”（第1時）

本実践では、上下の絵の組み合わせを楽しむしかけ絵本“Ketchup On Your Cornflakes?”を授業のまとめで使用した。本時がlikeを扱う第1時だったので、“Do you like～?”の表現が繰り返し出てくるこの絵本は、導入よりまとめで使う方が児童に理解しやすいと考えたからである。実際、先生同士の会話や、先生と児童のやり取りを通して、I like ～. / I don't like ～. / Do you like～? / What ～ do you like? と表現の幅が自然と広がった後に読み聞かせをしたところ、児童は内容を十分に理解しており、英語で反応を返していた。

授業後の振り返りで「内容が分からなかった」と書いた児童はおらず、絵の意外な組み合わせに驚いたり、自分にできるかを考えたりしながら聞いていたことが分かった。この絵本は、とても分かりやすいパターンブックなので、Do you like～?という表現に親しむ前に使っても児童は理解できる

と思われる。ただ、文法的な教え込みを避けることや、自然な授業の流れを考慮すると、本実践のまとめで使ったことは有効であったと考える。

③ 6年生1回目（6月）

単元 Lesson 3 I can swim. *Hi, friends! 2*（4時間配当）

本実践での使用絵本 “From Head to Toe”（第2時）

		実践前（第1時）通常の授業	本実践（第2時）絵本活用の授業
担任の 先生の 関わり		<ul style="list-style-type: none"> ALTの補助（通訳、機器の操作）。 児童が理解していない様子のときに、ほぼ日本語でALTの補足説明をし、英語を使うのは褒め言葉程度。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を主で進める。 英語の使用量が増える。 英語で児童に質問をしたり、児童の発言に反応を返したりする。
ALTの 関わり		<ul style="list-style-type: none"> 授業を主で進める。 指示や文法の説明を全て英語で行う。 理解度をみるために、児童に日本語訳をさせることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任の先生の補助（ミニ会話の相手、板書）。 児童同士のやり取りに参加する。 発言量は減る。
教材		<ul style="list-style-type: none"> <i>Hi, friends! 2</i> 絵カード 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本 “From Head to Toe”、<i>Hi, friends!2</i> 修学旅行の写真のスライド 絵カード
授業 展開	導 入	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ チャンツ 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 修学旅行でしたことについて、写真を見ながら先生と児童のやり取り 絵本の読み聞かせ（やり取りをしながら）
	展 開	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードを見ながら英文をリピート <i>Hi, friends!</i>の “Let’s Listen”の聞き取りと答え合わせ。 代表児童やALTが<i>Hi, friends!</i>の登場人物のできること、できないことを言い、だれかを当てるWho am I クイズ。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生のミニ会話（担任の先生、ALTのできること） めあての確認「自分のできることを友達に伝えよう」 できることできないことについて、担任の先生と児童のやり取りの後、児童同士のやり取りへ広げる。
	ま と め	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 数ペアにどのようなやり取りをしたか見せてもらう。 振り返り、あいさつ
授業展開 ・内容の 特徴		<ul style="list-style-type: none"> 絵カードを使った機械的な反復練習や、文法の説明が多い。 めあての提示、振り返りが少ない。 <i>Hi, friends!</i>の内容を教えることがメインで、児童や先生の本物の情報を扱う場面がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入の絵本の読み聞かせから自然な流れで先生と児童のやり取りへつなげ、今日することを類推させてからめあてを提示する。 児童や先生の本物の情報を扱うやり取りが多い。

絵本 “From Head to Toe” は、動物が次々と出てきて、自分のできるポーズを見せるお話である。「今日は自分のできることを話しましょう。」というように授業の最初にめあてを提示するのではな

く、修学旅行の鹿の話から動物の話へ、そして絵本へとつなぎ、その後でめあてを提示する流れが児童の思考に合った自然な導入になった。この絵本は昨年の研究でも5年生に使用したが、そのときと同様、動物名や体のパーツ名、動作を表す動詞が児童の心に残る一方で、絵本と同じ動作をすることには恥ずかしさがあり、全員ではできなかった。しかし、児童の振り返りには「動物の体の動きの英語が分かり勉強になった」と絵本が役立ったとの記述が多く見られた。

5年生の1回目の実践と同じように、6年生でも、担任の先生が英語を使って授業を進めるスタイルにとまどう児童は多かった。しかし、「英語の授業は気持ちを伝える場だと思う。みんなとふれ合うことができるから。」と振り返りに書いた児童がいたように、コミュニケーションを意識した授業のあり方は、児童にとって英語をもっと頑張ろうという原動力になったようだ。また、授業の導入で絵本の読み聞かせを行うことにより、必然的に授業中の担任の先生の英語使用量が増えることにつながった。

④ 6年生2回目（7月）

単元 Lesson 4 Turn right. *Hi, friends! 2*（4時間配当）

本実践（第1時）での使用絵本 “Where Is Little Toko?”

導入で使用した“Where Is Little Toko?”という絵本は、細々と描かれた絵の中から、いなくなったトコちゃんを探す内容なので、見えやすいようにあらかじめ絵本をスキャンしてデータを取り込み、スクリーンに大きく映し出して見せた。先生が、トコちゃんを探すお母さんやお父さんの絵を手を持って動かしながら、児童に“Where is Toko?”と問いかけ、児童が“Go straight, stop, turn right/left.”といった表現を使って、トコちゃんの居場所を教えるというやり取りをしながら読み進めた。これらのやり取りで使った表現は、その後の、ALTをヨガスタジオや寿司店へ案内する活動に活かされ、児童はテレビに映し出された校区の航空写真を見ながら上手に道案内をすることができた。本時の導入に、この絵本は大変有効だった。

今回の実践では、道案内の単元に合う絵本が研究所になく、図書館を回って探すのが大変であった。結局、英語版で出版されている日本の絵本の中から見つけることができた。かこさとしさんのイラストは児童にとってなじみがあるもので、反応もよかった。ただ、日本語の絵本を英訳した絵本の場合は、英文が長く難しくなっていることが多いので、自分で短くしたり言い換えたりする必要がある。

ここまでの取組みは、先述したように、1つの単元の1時間のみ単発で行ったが、9月からは単元を通して、4時間全ての授業の中で絵本を使い、毎時間授業の組み立てを考えて実践することにした。

⑤ 5年生3～6回目（9～10月）

単元 Lesson 5 What do you like? *Hi, friends! 1*（4時間配当）

本実践での使用絵本 “COLOR SURPRISES”（第1時）

“COLOR ZOO”（第2時）

“In the Autumn Forest”（第3、4時）

	3回目	4回目	5回目	6回目
導 入	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 絵本の読み聞かせ（やり取りをしながら） 絵の具の混色実演 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 先生の描く絵を当てるやり取り 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 絵本の読み聞かせ（やり取りをしながら） 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 絵本の読み聞かせ（やり取りをしながら）

展 開	<ul style="list-style-type: none"> 先生と児童のやり取り (好きな色) めあての確認「すきな色を言ったりたずねたりしよう」 先生と児童、児童同士のやり取り (好きな色) 	<ul style="list-style-type: none"> めあての確認「形を使って絵をかこう」 絵本の読み聞かせ (やり取りをしながら) 身近にあるものの形当てクイズ 先生の言う形を聞いて、絵を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生と児童のやり取り (好きな動物) めあての確認「すきなものをたずね合おう」 児童同士のやり取り (好きなもの、スポーツ、食べ物、色など) 	<ul style="list-style-type: none"> 先生と児童のやり取り (絵本に出てきた動物、昔話) めあての確認「友達のすきなものを知ろう」 名札に好きなものの絵を描き、児童同士のやり取り
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り あいさつ

本単元では、最終的に自分の好きなもの（色、動物、食べ物、スポーツなど何でも）を自由に言えるようになることをねらいとして各授業を組み立てた。第1時は色に着目し、絵本“COLOR SURPRISES”を導入で使用した。この絵本は、様々な色をした四角形の後ろに隠れている生き物を当てるしかけ絵本であるが、今回はしかけは見せず、色のみを見せていった。左右のページの色を言わせ、“Brown plus pink is... what color?” というように問いかけ、絵の具の混色実演をした。色の名前だけなら簡単に言える児童でも、混色を考え、それを英語で言ってみる活動に好奇心を刺激され、活発なやり取りが見られた。その後、好きな色を伝え合うやり取りへとつなげた。

第2時には形を導入することを目的に絵本“COLOR ZOO”の読み聞かせを行った。この絵本は、各ページが丸や四角などの形に切り抜かれており、ページをめくるごとに違った輪郭をもつ動物が出てくるしかけになっている。今回は、後ろからページをめくることで先に形を見せ、それが何の動物の絵になるかを当てるやり取りをした。八角形や六角形など少し難しい語も出てくるため、授業の中盤で扱ったが、導入でも使うことはできそうである。

第3、4時には、文部科学省から出ている絵本“In the Autumn Forest”を授業の導入で使い、色や形、動物名、動物を表す形容詞を扱った。表紙に見えるものを自由に言わせた後、最初のページで動物たちがかくれんぼをしていることに気付かせた。それから、“I see something white.”のようなヒント文から動物を当てさせ、“Are you a ~?”と一緒に言いながらページをめくっていった。第4時には龍が出てくるページや裏表紙まで細かく見て、日本の昔話や干支に出てくる動物のグループ分けをした。児童は、単元最後の第4時には自分の名札に好きなものの絵を自由に書き、それについて友達と伝え合うことができた。

児童はいずれの絵本にも興味を示した。“COLOR SURPRISES”と“COLOR ZOO”は単語のみが書かれた幼児向けの絵本、“In the Autumn Forest”は3年生向けに作られた絵本であるが、担任の先生が簡単な英語で絵について児童とやり取りをしながら読むことで、5年生の授業で使える教材になった。

本実践で4時間通して絵本を使った成果としては、まず、児童が英語が分かる実感をもてたことが挙げられる。最初は担任の先生の英語使用量が増え、英語の絵本なんて分からないととまどいを感じていた児童も、だんだん慣れてきて、最後には「英語の本は字が英語だけど、内容が分かればおもしろい」と書くようになった。絵本の読み聞かせから先生と児童、児童同士のやり取りへとつなげていくことを何度も繰り返すうちに、「だんだん英語がしゃべれるようになってきたのでうれしかった」「これからももっと勉強したい」という振り返りも見られるようになった。これからも絵本の読み聞かせをしてほしいという声も多く聞かれた。また、担任の先生にとっての成果は、絵本の読み聞かせが自然と授業で英語を使用するきっかけになり、コミュニケーションを意識した授業の組み立てや英語でのやり取りが楽になることが分かったことである。

⑥ 6年生3～6回目（9～10月）

単元 Lesson 6 What time do you get up? *Hi, friends! 2*（4時間配当）

本実践での使用絵本 “Good Morning”（第1時～第4時）

	3回目	4回目	5回目	6回目
導入	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 先生のミニ会話（朝起きる時刻） 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 先生のミニ会話（朝家を出る時刻） 児童同士のスモールトーク（ペアで） 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 先生のミニ会話（朝食の時刻と好きなメニュー） 児童同士のスモールトーク（ペアで） 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 先生のミニ会話（入浴の時刻） 児童同士のスモールトーク（ペアで）
展開	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせ（やり取りをしながら） めあての確認「朝の生活について、聞いたり話したりしよう」 先生と児童のやり取り（何時に起きる人が一番多いか） 絵本を参考に自分が朝することを順に、ペアで言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせ（やり取りをしながら） めあての確認「お昼の生活について、聞いたり話したりしよう」 絵本のカズの生活を再生して言う。 先生と児童のやり取り（何時に宿題をする人が一番多いか） 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせ（やり取りをしながら） めあての確認「夜の過ごし方について言ってみよう」 先生と児童のやり取り（〇時に何をしているか） 児童同士のやり取り（寝る時刻） 	<ul style="list-style-type: none"> 絵本の読み聞かせ（やり取りをしながら） めあての確認「自分の一日の生活について話そう」 先生と児童のやり取り（中学生の下校の様子） 中学生のスピーチビデオを見て、自分の生活と比べる。 学習のまとめのペアトーク（自分の一日）
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り あいさつ

本単元では、最終的に自分の一日の生活について自由に言えるようになることをねらいとした。have breakfast, brush one's teeth, leave one's house 等の動作を表す多くの表現と、時刻とを同時に扱っている単元なので、それらの表現を機械的に教え込む授業にならないように、絵本“Good Morning”を毎時間の中盤に扱い、担任の先生、ALTと児童のやり取りを交えながら読み聞かせをすることで自然に導入できるようにした。長い絵本なので、第1時は朝、第2時は昼、第3時は夜の場面と区切って読むことにした。

第1時では、担任の先生とALTの起きる時刻を聞いた後、絵本を読み聞かせ、主人公カズの朝の様子を自分たちと比べていった。児童は、カズやクラスの友達と自分との相違点や共通点を知ったり、英語で時刻を言うと「時」「分」の単位がないことに気付いたりし、驚きを見せた。「絵本を使う方が、頭に入り分かりやすい」という振り返りが複数あり、この絵本が自然な導入に有効であることが分かった。

第2時から、授業の導入で、前時に読んだ絵本のページに出てきた表現を使って、先生のミニ会話と児童同士のスモールトークを取り入れた。実際に読み聞かせで何度も聞いた表現を使ってみることで、それらの表現に慣れ親しむようにした。それから、絵本を読み進め、カズの昼や夜の様子を自

分や友達と比べさせた。第3時の振り返りには、様々な表現が増えていくことについて「何て言うのかわからない」と不安を書く児童もいる一方で、「発音が分からなくても先生の読み聞かせをよく聞いたら分かった。聞くことは大事だと思った。」と書いた児童もあり、分からない状態でもあきらめずに聞いて理解しようと努めている様子がうかがえた。また、「毎回、次の授業は何かな、と気になる」「最近習う英語は、日常で使う言葉が多いのでがんばっている」というように学習に前向きな振り返りが増えてきた。

第4時には、絵本を最初から最後まで先生と一緒に読んでみるようにしたところ、何度も繰り返し聞いたり、やり取りしたりした第2時までのページは、ほとんどの児童が声に出して読むことができていた。文字を読むのではなく、耳から聞いた音の記憶を頼りに声に出した、というのが正しいところだが、「絵本を何度も聞いたり読んだりしていろんな言い方が言えるようになってとても嬉しい」「みんなで絵本で英語を言ったことが楽しかった。絵本を読んでいるうちにこの絵本に書いてある英語をしゃべりながら覚えられた」と喜びを感じている振り返りが多く見られた。中学生のスピーチビデオを見て、中学生と小学生の生活の違いを知った後で、「今のみんななら中学生みたいに英語で言えると思うよ」と先生が声をかけ、児童も自分の一日の生活をペアで伝え合ったところ、どの児童も3～6文で紹介することができた。絵本に出てくる表現を活用して、自分のことを言えるようになった。

本実践を終えて、「絵本の内容もよく分かり、英語が好きになった。」「あの絵本の第2シリーズがあったら読み聞かせして欲しい」「国語の教科書を音読すると内容がよく入ってくる。英語も同じで絵本だと頭にすーっと入ってくるのが楽しかった。これからも英語の授業を楽しみながら受りたい」

「私は本が好きで、英語の絵本を読んだ方がもっと覚えられると思うので、苦手なところについての絵本を探して読んでみようと思う」というような児童の振り返りから、絵本“Good Morning”を授業で効果的に活用できたことが分かった。この絵本は4年生向けに作られた絵本であるが、6年生の授業でも十分使うことができる。

(4) 協力員への事後の聞き取り

以下は、全ての授業実践後に行った聞き取りで分かった、協力員が感じた成果や課題である。

(英語絵本に関して)

- 絵本を活用することで、語句や表現などを自然に導入できた。
- やり取りをしながら読み聞かせをしていく中で、児童自身が授業のめあてに気付くことがあった。
- 同じ絵本を何度も読み聞かせると、まるで教科書の音読のように、児童と一緒に声を出して読めるようになった。
- 絵本がある方が、授業の導入をゼロから考える必要がなく楽だった。
- 実践前は、発音に自信がないと言っていたが、やってみたらできたので、今後も授業で絵本を使っていきたいと思う。
- 読み聞かせそのものは、英語専科ではなくてもそんなに負担はなかった。
- △単元に合う絵本探しは難しい。今後もきっと悩むだろう。

(授業に関して)

- ALTに頼らず、自分が主となって授業を進めるやり方が分かり、心の中のハードルが少し下がった。自分の英語を児童が分かってくれて嬉しいと感じた。
- 今後、自分一人でも、部分的にならメッセージのやり取りを重視した言語活動を考えて授業に取り入れていくことはできそうである。

△今回は研究所と一緒に考えることができたが、自然な流れを意識した授業の組み立てを、毎時間一人で考えていくのは難しいと感じる。

△授業で英語を使うことは難しかった。他教科なら児童の発言をさらに追究し、授業を広げていくことができるが、英語だと切り返せず、話がそこで終わってしまうことがよくあった。

4 研究の成果

授業で絵本を活用したことによる成果は、大きく三つあった。

- (1) 担任の先生が授業で英語を使用するきっかけになり、自分が主となって進める授業の見通しが立った。

英語専科ではない先生にとって、英語を話すことへの心理的な抵抗は大きく、挨拶以外は自信がないとよく聞く。しかし今回の実践では、やり取りをしながら絵本を読み聞かせること自体が必然的に英語を使う機会になり、授業で英語を使おうとする気持ちを後押しし、英語の使用量を増やすことができた。また、担任の先生が、どのように自分が主となって授業を行っていくとよいか分かり、今後の授業の見通しをもつことができた。

- (2) 絵本が外国語活動の授業をコミュニケーションの場にする一つの手段になった。

外国語活動の授業において、毎時間、英語を使う必然性のある自然な場面設定を考えるのはたやすいことではない。しかし、英語絵本があれば、自然と児童を絵本の世界にいざない、やり取りを通して自分のことや身近なことへつなげ、考えを広めさせることができる。絵本が自然なコミュニケーションへの橋渡しとなり、先生の負担を軽減するのに役立つことが分かった。

- (3) 日本語を頼りにしないで英語が分かる実感を、児童がもつことができた。

児童は、これまではALTの英語を担当の先生の先生が訳す日本語で理解していた部分があったが、やり取りを交えた絵本の読み聞かせを通して、英語を何とか聞き取ろう、理解しようとする機会が増え、「英語が分かった」という実感をもちることができた。

5 研究の課題

これらの実践を通し、授業で英語絵本を活用する際の課題が三つ浮かび上がってきた。

- (1) 単元に合う絵本探し

昨年度、朝の時間などに担任の先生が英語絵本の読み聞かせを無理なく行えるように、研究所で英語絵本を33冊揃え、リスト化した。しかし、それらのほとんどは、「児童の興味関心に合いそうなもので、なおかつ外国の文化や習慣を知ることができるもの」という観点から選んだためHi, friends!の単元に合うものは少なく、絵本の題材や難易度に偏りもあった。今年度、授業で絵本を活用するにあたり、特に6年生の「道案内」や「一日の生活」の単元での絵本選びに苦労した。それほど絵本が充実してはいない学校も多いので、次の**6 小学校英語及び外国語活動の授業研究会**の粕谷恭子教授のお話にもあるように、「この単元ではこの絵本が使える」というような情報を共有することが有益となる。今後、研究所の絵本の貸し出し体制を整えていきたいと考えている。なお、文部科学省から昨年度出された3・4年生用補助教材の絵本2冊（“Good Morning”、“In the Autumn Forest”）も各学校にDVDで配布されているので活用されたい。

- (2) 授業の自然な流れ

本実践では、絵本の内容や、絵本の読み聞かせでやり取りしたことが、授業で行う活動と自然につながるよう考えながら授業を組み立てることに時間をかけた。授業で絵本を使う際には、児童の実態やねらいに合わせ、かつ授業が自然な流れになるように留意して、授業のどの場面でどのように絵本を使うかを毎時間検討すべきである。

(3) 先生の英語力向上

英語専科でない先生にかかる負担という面では、絵本の読み聞かせはそれほどなかったが、英語を使ってやり取りをすることに対しては大きかった。やり取りの中で想定外の児童の発言にも英語で対応していくには、やはり先生方自身の英語力向上が必須となる。各自が英語絵本の読み聞かせやALTとの会話などを通して、絶えず努力を続けていくことが求められる。

6 小学校英語及び外国語活動の授業研究会

8月に、英語教育グループの研究アドバイザーである東京学芸大学の粕谷恭子教授をお招きして、「小学校英語及び外国語活動の授業研究会」を行った。授業で英語絵本を使用する際に気をつけるべきことについて、ご教授いただいたことを示す。

- (1) 授業に絵本の読み聞かせを取り入れるときは、何のために使うのか、目的をもって取り入れる。詩のような絵本なら、リズムを味わうために地の文をシンプルに読んでいき、途中でやり取りを入れない。今回の実践のように、コミュニケーションを重視するなら、やり取りをしながら読む。
- (2) 児童とやり取りをしながら読むのであれば、日本語の絵本でもよい。図書館で簡単に入手できる。
- (3) 絵本の便利なところは、言葉がみっちりつまっている世界を作家さんが作ってくれているので、その世界をうまく活用すると授業につなげるのが楽になるところである。
- (4) 授業や教材に合った絵本を一人で探すのは大変なので、一人で抱えず何人かで探して、12月ならこの絵本、というように情報交換をするとよい。

III 研究のまとめ

これまで2年間、英語絵本の活用法について研究を進めてきた。朝の時間など授業以外の時間に行う英語絵本の読み聞かせの手法や、英語専科でない先生が授業をコミュニケーションの場にするために絵本をどのように使うかについて、実践を基に検証することができた。絵本を使った活動には他にも、児童一人一人が小型の絵本を持ち文字をなぞりながら読んだり、児童が役になりきって読んだり、黙読したり、とさまざまな種類が考えられる。県内の小学校の、現時点での絵本所有状況を考えると、それらの活動は将来的に絵本がさらに普及してから充実できそうである。英語教育グループとしては、英語絵本に関する研究はこれで区切りをつけて、次年度からは、教科化される小学校外国語の授業づくりや学習評価の研究に取り組む予定である。

最後に、本研究の実施にあたり、東京学芸大学教授粕谷恭子先生をはじめ、研究協力校としてご尽力くださった先生方に、この場を借りて心より厚くお礼申し上げます。

《参考文献》

- 文部科学省(2016)『次期学習指導要領に向けた指導力向上のための文部科学省作成 補助教材等について』
- 文部科学省(2017)『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』
- 第10研究グループ(2010)『語研ブックレット3 小学校英語1 ～子どもの学習能力に寄り添う指導方法の提案～』
一般財団法人 語学教育研究所
- 第10研究グループ(2012)『語研ブックレット5 小学校英語2 ～子どもの学習能力に寄り添う授業づくりの提案～』
一般財団法人 語学教育研究所
- 久埜百合・粕谷恭子・岩橋加代子(2008)『子どもと共に歩む英語教育』ぼーぐなん
- 師子鹿元美(2017)「小学校の外国語活動における英語絵本の活用についての調査研究」『別府大学短期大学部 紀要』No. 36
- 福井県教育研究所(2017)研究紀要 第122号